

第16回 柿田川シンポジウム『湧水がはぐくむ柿田川の生態系』

～柿田川生態系研究会～

自然環境グループ 研究員 澤田 みつ子
 主席研究員 宮本 健也

令和元年 11 月 30 日(土)、三島商工会議所会館 TMO ホール (静岡県三島市) にて、「第 16 回柿田川シンポジウム (主催:柿田川生態系研究会, 代表:加藤憲二 静岡大学 名誉教授)」が開催されました。

関係者を含む総計 84 名が参加し、河川環境保全の観点から議論を行いました。

第一部 テーマ『湧水がはぐくむ柿田川の生態系』
「日本の河川と柿田川の河相」 東京大学 准教授 知花 武佳
「柿田川の湧水生態系の特徴と保全上の課題」 京都大学 准教授 竹門 康弘
「富士山溶岩台地からの湧き水と駿河湾の恵み」 山梨大学 准教授 岩田 智也
第二部 地域での活動・取組について
「柿田川における沼津河川国道事務所の取り組み」 国土交通省 中部地方整備局 沼津河川国道事務所 「空から柿田川を見る」 (有) KELEK 代表取締役 十田 一秀
「アオハダトンボの生存大ピンチ」 (公財) 柿田川みどりのトラスト 会長 漆畑 信昭
「ポリスチレンと麻ひもを用いた接触材の作製 ～河川水の富栄養化を抑えるための接触酸化法によるリンの除去と亜硝酸の減少について～」 加藤学園高等学校 化学部
「これまでの柿田川サマーサイエンススクールの報告」 (公財) リバーフロント研究所

第一部では、「湧水がはぐくむ柿田川の生態系」をテーマに、柿田川生態系研究会の 3 人の学識者が、日本各地の湧水河川や、柿田川とその周辺の富士山～駿河湾地域の水環境に関する研究を紹介しました。

東京大学 知花 武佳 准教授からは、日本各地の河川と柿田川の『河相』の比較、近年各地で見られている河相の変化 (礫河原の減少等)、及び住民の活動と河川の関りが紹介されました。

京都大学 竹門 康弘 准教授からは、生態系のつながりから見た柿田川の特徴、景観の変化、保全上の課題が紹介されました。

山梨大学 岩田智也 准教授からは、富士山の溶岩台地からの湧水が、柿田川を含む狩野川水系を通して沿岸の植物プランクトンの増加に影響を与えていることが紹介されました。

第二部では、地域での活動・取組について報告を受けました。(有) KELEK 十田一秀 代表取締役から

は、空から柿田川を見るときとして、最新のドローン技術による河川区域の調査手法について発表頂きました。

加藤学園高校 化学部からは、ポリスチレンと麻ひもを用いた接触材の作製 (河川水の富栄養化を抑えるための接触酸化法によるリンの除去と亜硝酸の減少) の研究について発表頂きました。



図 会場風景

参加者アンケートでは、「今回扱われた内容について定期的な報告を知りたい」、「ドローンを使用した調査の発表が面白かった」「柿田川の課題について、今後の対策方法を具体的に知りたい」という意見がみられました。

なお、シンポジウム会場内にてパネル展示コーナーを設け、柿田川を中心とした地域の河川について情報発信の場としました。シンポジウムの発表団体から展示協力を頂きました。



図 パネル展示

※柿田川生態系研究会のこれまでの活動・研究成果をホームページで紹介しています。

(http://www.rfc.or.jp/kakita_group.html)

謝辞：第 16 回 柿田川シンポジウムの実施に際しては、公益財団法人 河川財団の河川基金助成事業の助成を受けました。清水町、(公財) 柿田川みどりのトラスト、柿田川湧水保全の会、静岡大学からは後援を頂きました。各機関に御礼申し上げます。